

令和4年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 三木市立自由が丘幼稚園

観点	①心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	<p>4月当初5歳児は、情緒面では温厚で落ち着いた子どもが多く、4歳児は、自分の思いを素直に表現し様々な場面で自分の心と葛藤している子が多かった。コロナ禍の影響もあり、例年以上に様々な面で経験が不足しており、より幼さが目立つ。一見落ち着いて見える子どもたちだが、実際は周りの環境や友だちにかかわることに消極的な子どもが多く、自らかかわることが少ないので、心が弾み、環境に積極的ににかかわり熱中して遊ぶ姿が少なかった。</p>
目標	<p>周りの環境や人にかかわり、心を動かしながら進んで遊ぼうとする子どもの育成</p>
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人支援案の作成・・・個々の遊びの記録と個人の内面理解をする。遊びの展開計画・・・意欲的ににかかわりたくなる環境構成について工夫する。 ○ 自然を身近に感じるための畑のお引越しプロジェクト ○ 心の育ちが見えたエピソード記録などを作成し、反省と評価により課題を明確にし、環境の再構成をおこなう。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「畑のお引越しプロジェクト」など、自然に自らかかわることができる環境を子どもと職員が一緒につくったことで、子どもの主体性を引き出した。 ○ 個人支援案を作成し職員間で意見交換したことで、多面的な子どもの内面理解をすることができ、意欲的に遊ぶための具体的支援が明確になった。 ○ 感染症に配慮しつつ、小学校、地域などに積極的にアプローチし、人とかかわりを多く重ねていく中で、園だけでは見られない表情や多くの人にかかわることで生まれる自信などが見られた。
評価	<p>コロナ禍による「経験不足」という子どもたちへの影響を考慮しつつ、地域や保護者などの協力を得ながら、多様で豊かな経験を子どもたちに提供しようと尽力されている。さらに「個人指導案」を作成し、子どもたち一人ひとりをきめ細かく支援しようとする取組みがなされている。また、子どもたちの発案によるダイナミックな遊びも展開されていた。園長先生のリーダーシップの元、これらの姿勢が職員間で共通理解の上で共有されており、子どもたちの日々の成長につながっている。</p>